

先取り

★★★
トレッキング

モンブラン、マッターホルンを眺めるウルトラ山岳レースの舞台をのんびり歩く

6名から催行

アルタヴィア・トレッキング 12日間

イタリア

7月9日(月)～7月20日(金)

新千歳発着

旅行代金 578,000円

東京発着

568,000円

※その他の空港発着についてはお問い合わせ下さい

〈利用予定航空会社〉フィンランド航空、アリタリア航空、全日空など
 〈利用予定ホテル〉クールマイユール／ホテル・クリュー サン・レミ／ポーセ
 ジュール オヤーチェ／ラトゥール アオスタ／ホテル・トゥラン または同
 等クラス ※トレッキング中は山小屋宿泊 〈食事〉朝 10回・昼0回・夕8回
 〈最少催行人数〉6名(最大10名) 〈1人部屋追加料金〉55,000円(山小屋を除く)
 〈添乗員〉新千歳空港から全行程同行

■査証/不要 ■パスポート残存有効期間/現地出国時3ヶ月以上
 ■燃油サーチャージ/空港諸税は別途申し受けます(目安:30,000円 ※2017年1月現在)

ポイント

- 1 ルートNo1 “巨人のアルタヴィア”の7区間を6泊7日で踏破
- 2 アオスタ州の伝統的な建物や素朴な山村風景も垣間見る
- 3 途中のホテルに着替えや荷物を別送。身軽・快適に登山

アルタヴィア(Alta via)

ヴァッレ・アオスタ州を一周するようにつけられた山岳トレイル。マッターホルンやモンブランを眺める北部の“No1(17区間)”と、グラン・パラディソンの山嶺を縫う南部の“No2(14区間)”から成り、両コースを繋ぐ全長330kmは、制限時間150時間で制覇する山岳レース「トル・デジアン(巨大な旅)」の舞台として有名。通常ペースでも全踏破には1ヶ月近くかかると言われます。今回は、“No1”からモンブラン山群を眺めながらマッターホルン山麓へと下る7区間を、移りゆく山岳絶景とのどかな山村風景を楽しみながらゆったりとります。



▲雄大な山岳景観が広がるチャンピオンのコルへの登り(5日目)



▲マッターホルンを見ながらゴールのヴァルトランシュヘ(9日目)

地 名	行 程	食事
1 新千歳/乗継都市 ジュネーブ クールマイユール	新千歳 → 乗継都市 → ジュネーブ 着後、専用車で移動。 モンブラン・トンネルを抜け、イタリアのクールマイユールへ。 【クールマイユール/ホテル泊】	一 機 機
2 クールマイユール	クールマイユール滞在。終日フリータイム。翌日からのトレッキングに備えてご自由にお過ごし下さい。希望者は近郊ハイキングへご案内(交通費実費)。 【クールマイユール/ホテル泊】	朝 一 夕
3 クールマイユール ラ・ヴァシェイ P.G.フラサティ小屋	路線バスでラ・ヴァシェイへ。ここからトレッキング開始。モンブラン山群を背にマトラのコル(2925m)へ。1時間ほど下り、P.G.フラサティ小屋(2542m)へ。 ●歩程5～6時間 【P.G.フラサティ小屋/山小屋泊】	朝 一 夕
4 P.G.フラサティ小屋	下り中心の1日。いくつかの小屋を越え、アルプス越えの要所サン・ベルナル峠の南麓の街サン・レミ(1600m)へ。 ●歩程5～6時間 【サン・レミ/ホテル泊】	朝 一 夕
5 サン・レミ チャンピオン小屋	標高差約1000mをチャンピオンのコル(2709m)まで登り返し。30分ほど下りチャンピオン小屋(2375m)へ。 ●歩程6～7時間 【チャンピオン小屋/山小屋泊】	朝 一 夕
6 シャンピオン小屋 オッロモント オヤーチェ	グラン・コンパン(4314m)を眺めながらオッロモント(1393m)へ下山し、タクシーにてオヤーチェへ。 ホテルに別送した衣類に交換、シャワーでリフレッシュ。 ●歩程2～3時間 【オヤーチェ/ロッジ泊】	朝 一 夕
7 オヤーチェ ヴェツナのコル クーニイ小屋	コース中最高所、ベッソナのコル(2793m)まで標高差約1300mを登ります。クーニイ小屋(2652m)までは気持ちの良い稜線歩き。 ●歩程6～7時間 【クーニイ小屋/山小屋泊】	朝 一 夕
8 クーニイ小屋 バルマッセ小屋	山上湖が点在する美しいコースを歩きます。エルザ峠を過ぎる辺りからマッターホルン(4478m)が見えてきます。湖畔に建つバルマッセ小屋(2157m)へ。 ●歩程6～7時間 【バルマッセ小屋/山小屋泊】	朝 一 夕
9 ヴァルトランシュ アオスタ	小屋からヴァルトランシュへ下山し、トレッキング終了。専用車でヴァッレ・アオスタ州の州都、アオスタへ。 ●歩程2～3時間 【アオスタ/ホテル泊】	朝 一 夕
10 アオスタ	終日、アオスタにてフリータイム。 【アオスタ/ホテル泊】	朝 一 夕
11 アオスタ ジュネーブ	朝食後、専用車でジュネーブ空港へ。 ジュネーブ → 乗継都市 → 【機中泊】	朝 機 機
12 乗継都市 新千歳	→ 乗継都市 → 新千歳	機 二

※現地の諸事情により、トレッキングコースや宿泊地が一部変更となる場合があります。

※トレッキングには登山ガイドが同行します。

写真提供/ヴァッレ・アオスタ州観光局(撮影:Enrico Romanzi)

行程詳細(暫定)は次ページをご参照ください



フェレの谷(クールマイユール近郊のハイキングコース)



クネイ小屋(7日目宿泊)

2018年 アルタヴィア・トレッキング行程表(暫定)

2018.4.17

月日	地名	行程	鯖
7/9 (月)	新千歳 羽田	新千歳 20:30 発 → 〈NH-82 便〉 → 羽田 22:05 着 ※関東からご参加の方は、羽田空港にて合流となります 羽田 00:30 → 〈EK-313 便〉 → 【機中泊】	一機機
7/10 (火)	乗継都市(ドバイ) ジュネーブ クールマイユール	→ ドバイ 06:15 着 / 08:30 発 → 〈EK-89 便〉 → ジュネーブ 13:15 着 着後、専用車でモンブラン・トンネル(国境)を抜け、イタリアのクールマイユールへ(15:00 頃到着)。着後、フリータイム。 街の散策、買い物など翌日からのトレッキングに備えてご自由にお過ごし下さい。トレッキングに不要な荷物はホテルに預けます。 【クールマイユール/ホテル泊】	機一タ
7/11 (水)	クールマイユール ラ・ヴァシェイ P.G.フラサティ小屋	ホテルで登山ガイドと合流し、路線バスでラ・ヴァシェイへ。ここからトレッキング開始。モンブラン山群を背にマラトラのゴル(2925m)へ。 1時間ほど下り、P.G.フラサティ小屋(2542m)へ。 ●歩程約5時間 【P.G.フラサティ小屋/山小屋泊】	朝一タ
7/12 (木)	P.G.フラサティ小屋 サン・レミ	下り中心の1日。いくつかの小屋を越え、アルプス越えの要所サン・ベルナル峠の南麓の街サン・レミ(1600m)へ。 ホテルはシャワーのみとなります。 ●歩程約5時間 【サン・レミ/ホテル泊】	朝一タ
7/13 (金)	サン・レミ チャンピオン小屋	標高差約1000mをシャンピオンのゴル(2709m)まで登り返し。 白い峰々と緑の谷が織り成す壮大な展望が広がります。 30分ほど下りチャンピオン小屋(2375m)へ。 ●歩程6~7時間 【チャンピオン小屋/山小屋泊】	朝一タ
7/14 (土)	チャンピオン小屋 オロモン オヤス	グラン・コンバン(4314m)を眺めながらオロモン(1393m)へ下山し、タクシーにてオヤスのホテルへ。 別送しておいた衣類(着替え)に交換、シャワーでリフレッシュ。 ●歩程2~3時間 【オヤス/ロッジ泊】	朝一タ
7/15 (日)	オヤス ヴェッソナのゴル クネイ小屋	コース中最高所、ヴェッソナのゴル(2793m)まで標高差約1300mを登るハードな1日になります。その後はクネイ小屋(2652m)までなだらかで気持ちの良い稜線歩きです。 ●歩程6~7時間 【クネイ小屋/山小屋泊】	朝一タ
7/16 (月)	クネイ小屋 バルマス小屋	レセネー湖、トサン湖など山上湖が点在するコースを行います。エルザ峠を過ぎる辺りからマッターホルン(4478m)が見えてきます。 湖畔に建つバルマス小屋(2157m)へ。 ●歩程6~7時間 【バルマス小屋/山小屋泊】	朝一タ
7/17 (火)	バルマス小屋 バルトゥルナンシュ チェルヴィニア アオスタ	小屋からバルトゥルナンシュへ下山し、トレッキング終了。 下山後、専用車で逆さチェルヴィーノ(伊語でマッターホルン)を映す景勝地ブルー湖に立ち寄り、チェルヴィニアへ。 着後、昼食とフリー散策(約3時間)。 専用車でヴァッレ・アオスタ州の州都アオスタへ(16:00 頃到着)。 ●歩程2~3時間 【アオスタ/ホテル泊】	朝一タ
7/18 (水)	アオスタ	終日、アオスタにてフリータイム。アウグストゥス凱旋門や円形劇場など、古代ローマの遺跡が数多く残り「アルプスのローマ」と呼ばれるアオスタの観光や、郊外の古城めぐり、ショッピング等をお楽しみ下さい。 余力があれば、近場のハイキングコースを歩くのもオススメです。 【アオスタ/ホテル泊】	朝一
7/19 (木)	アオスタ ジュネーブ/ドバイ	朝食後、出発までフリータイム。10時頃、専用車でジュネーブ空港へ。 ジュネーブ 15:15 発 → 〈EK-90 便〉 → ドバイ 23:45 着 【機中泊】	朝機機
7/20 (金)	ドバイ 成田 新千歳	ドバイ 02:40 発 → 〈EK-318 便〉 → 成田 17:35 着 ※関東からご参加の方は、成田空港にて解散となります 成田(夕刻) → 新千歳(夜) ※フライトは未定です	機一

※NH=全日空 EK=エミレーツ航空

※現地の諸事情によりトレッキングコースや宿泊地が一部変更となる場合があります。

※トレッキングにはトレッキングガイドが同行します。※地名や小屋の名称は英語読みと仏語読みで多少異なります

ヴァッレ・アオスタ州のトレッキング

ALTA VIA アルタヴィア No.1

※当ツアーはこちらを歩きます

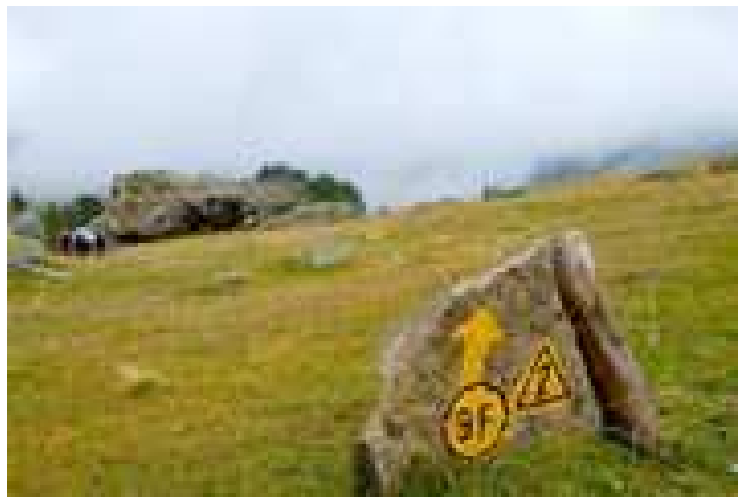
ドンナスからクールマイユールまで、ヴァッレ・アオスタ州の北部を東西に歩く「アルタヴィア No.1」は、ヨーロッパの名峰、モンテ・ローザとモンテ・チェルヴィーノ（matterhorn）、モンテ・ピアンコ（モンブラン）の麓を通るため、「**巨人のアルタヴィア**」とも呼ばれています。美しい風景だけではなく、ヴァッ



レ・アオスタの伝統的な村やヴァルサーの建物など見ることができる、興味深いコースです。道幅は平均 80cm 幅で、コース全体にわかりやすい標識があるので、誰でも挑戦できます。コースの平均標高は 2000m ですが、3000m の高さまで登るところもあります。「アルタヴィア No.1」は 17 区間に分かれており、各区間は 3~5 時間ほどで歩くことができます。コース沿いには、山小屋、キャンプ場、ホテルなど、休憩所や宿泊施設が何ヶ所もあります。ベテラン登山家には全コースを歩いて制覇してみるのも面白いチャレンジになりますし、初心者は短い区間だけ歩くのもよいでしょう。コースは町も通るので、途中でバスに乗って帰ることができます。「アルタヴィア No.1」は、夏季限定のトレッキングコースです。

ALTA VIA アルタヴィア No.2

自然豊かなグラン・パラディーゾ国立公園とモン・アヴィク公園を通る「アルタヴィア No.2」は、「**自然のアルタヴィア**」とも呼ばれています。クールマイユールからドンナスまで、ヴァッレ・アオスタ州の南部を西から東へ行くこのコースは、素晴らしい自然景観を呈します。多彩な花が咲いている山の道を歩いてい



くと、高く舞い上がるワシや、岩から岩へ跳ね回るスタンベッコに出会うことも珍しくありません。道幅は平均 80cm 幅で、コース全体にわかりやすい標識があるので、誰でも挑戦できる登山道です。コースの平均標高は 2000m ですが、3000m の高さまで登るところもあります。「アルタヴィア No.2」は 14 区間に分かれており、各区間は 3~5 時間ほどで歩くことができます。コース沿いには、山小屋、キャンプ場、ホテルなど、休憩所や宿泊施設が何ヶ所もあります。ベテラン登山家には全コースを歩いて制覇してみるのも面白いチャレンジになりますし、初心者は短い区間だけ歩くのもよいでしょう。コースは町も通るので、途中でバスに乗って帰ることができます。「アルタヴィア No.2」は、夏季限定のトレッキングコースです。

7月9日(月)～7月20日(金) アルタヴィア・トレッキング12日間

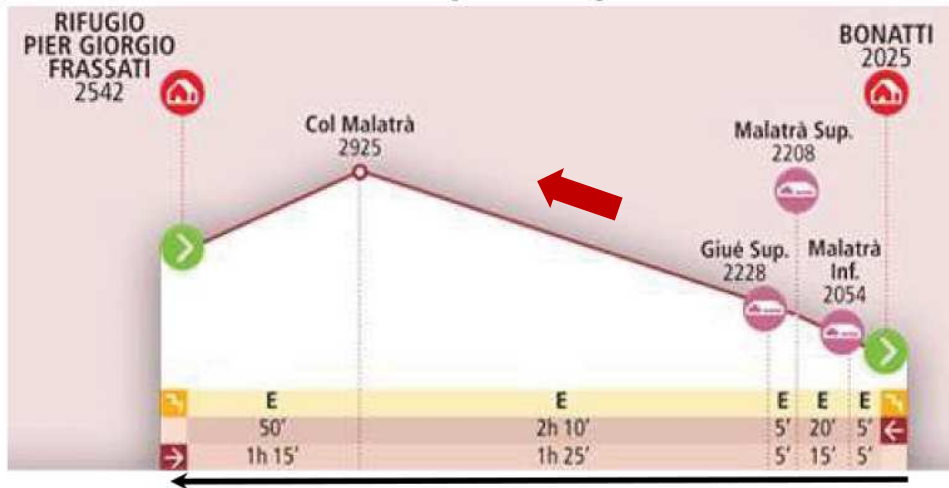
トレッキング・コース高低表 (暫定コース)

1日目 日本出発→乗継都市(ドバイ)→機中泊

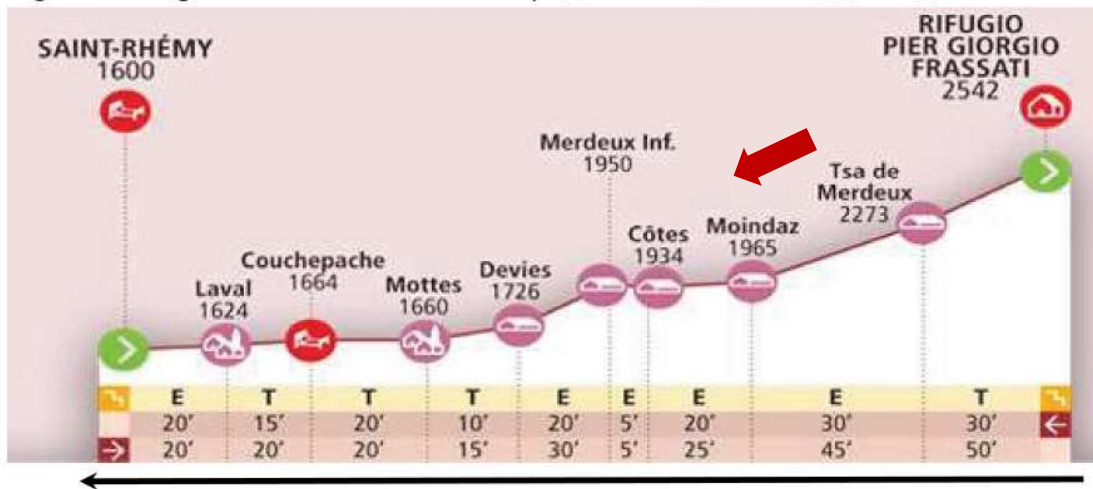
2日目 →ジュネーブ=クールマイユール/着後フリータイム(買い物・散策など) クールマイユール泊

3日目 Courmayeur (クールマイユール) → Lavachey (ラバシェイ) (公共バス) 30分

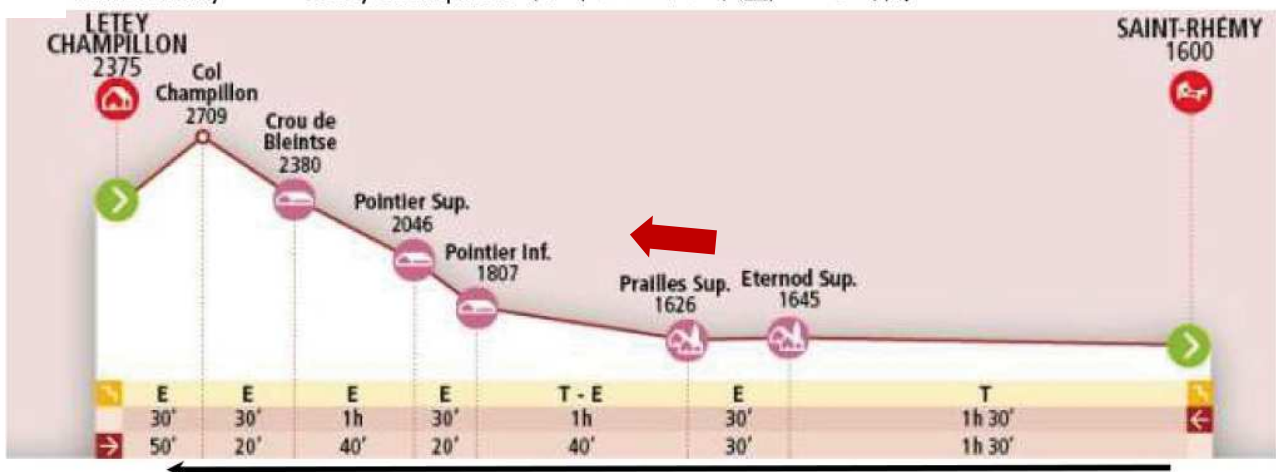
Lavachey→Rifugio Bonatti (ボナッティ小屋)→Rifugio Pier Giorgio Frassati (フラサティ小屋) 4時間30分



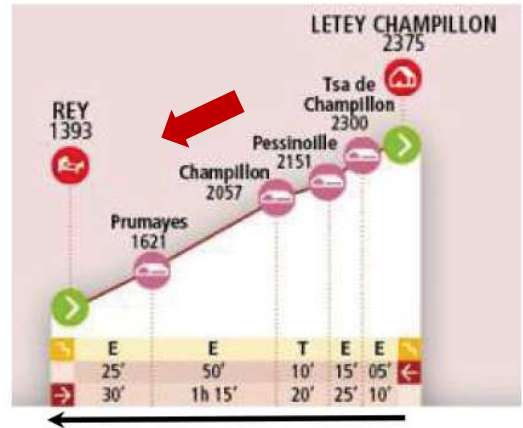
4日目 Rifugio Pier Giorgio Frassati → Saint-Rhémy (サン・レミ) 4時間50分



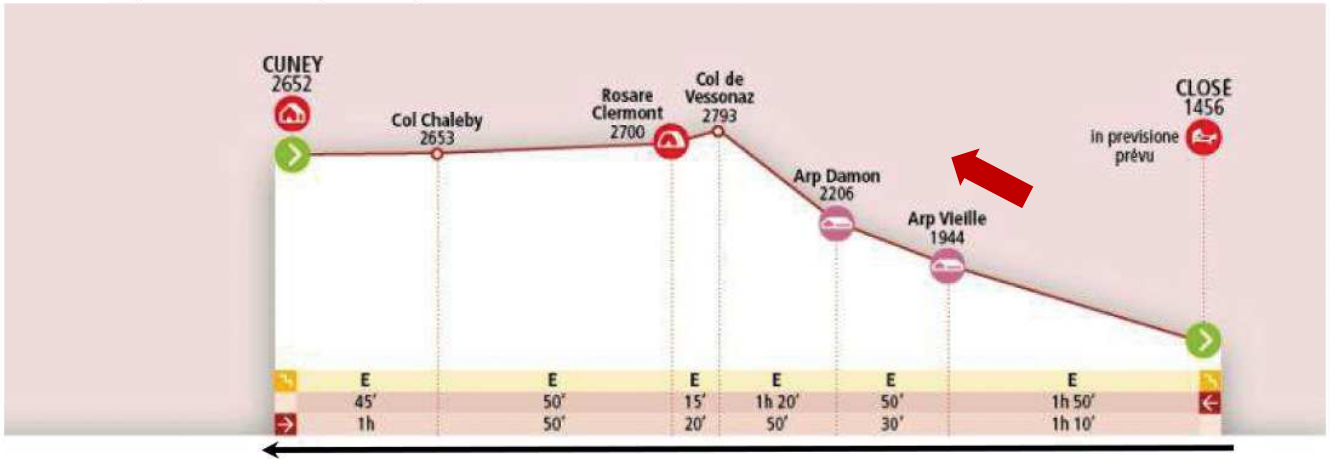
5日目 Saint-Rhémy → Letey Champillon (シャンプイオン小屋) 6時間



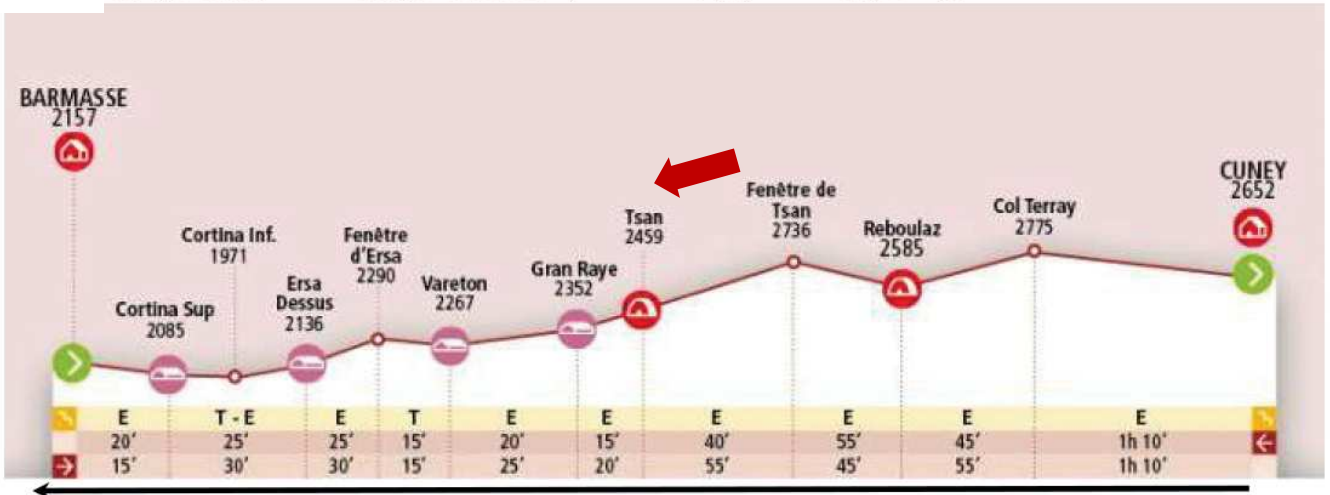
6 日目 Letey Champillon→Rey(Ollomont) (オロモン) 2 時間
 Rey(Ollomont)→Oyace (オヤス) (タクシー) 20 分



7 日目 Oyace → Rifugio Cunéy (クネイ小屋) ホテル泊 6 時間 35 分



8 日目 Rifugio Cunéy → Rifugio Barmasse (バルマス小屋) 5 時間 45 分



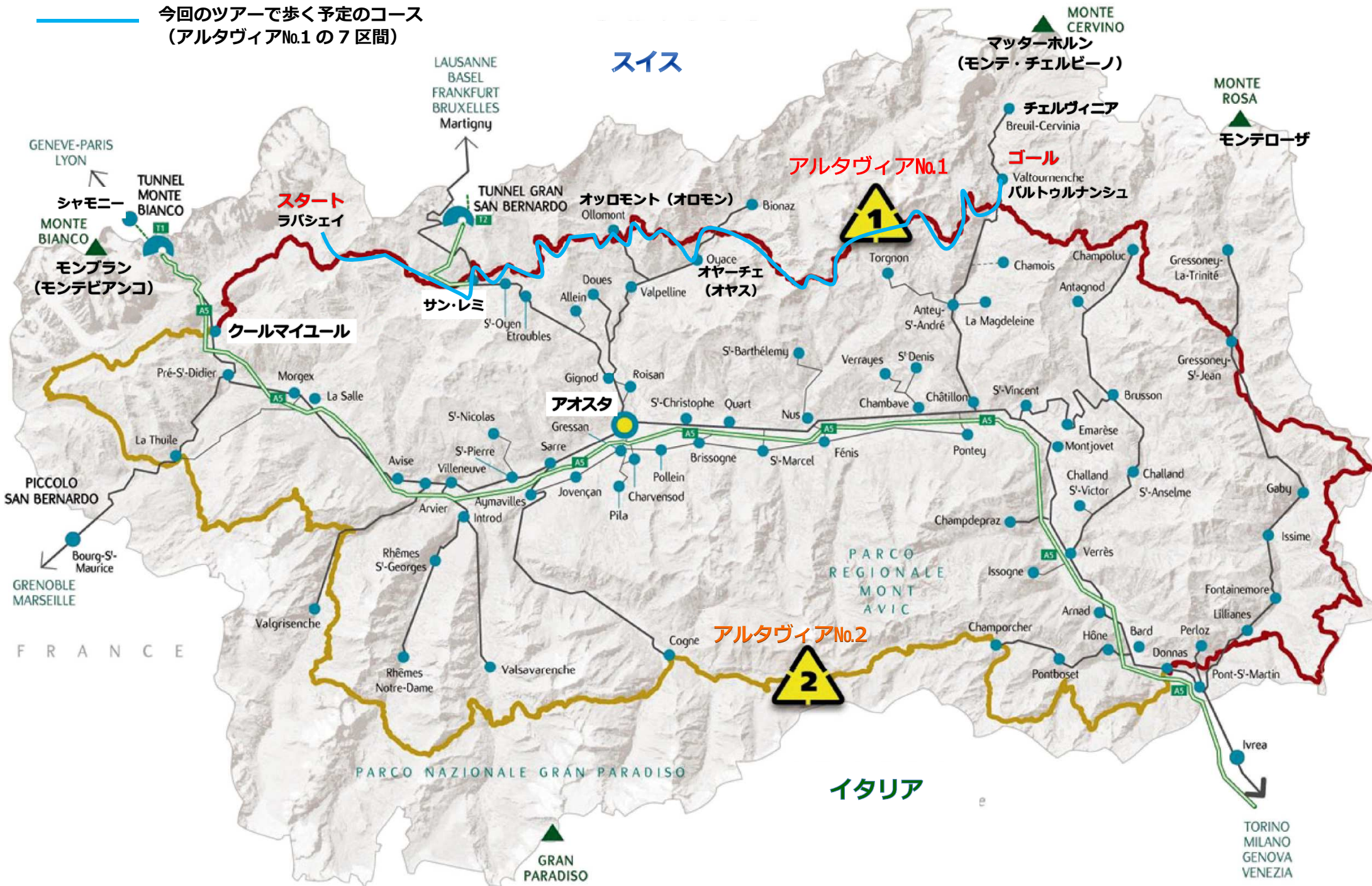
9 日目 Rifugio Barmasse →Valtournenche (バルトウルナンシュ) 2 時間
 Valtournenche/Crétaz = チェルヴィニア(昼食と観光・散策) =
 アオスタ (タクシー約 30 分) アオスタ泊

10 日目 アオスタにて終日フリータイム アオスタ泊

11 日目 アオスタ=ジュネーブ空港へ 12 日目 帰国



今回のツアーで歩く予定のコース
(アルタヴィアNo.1の7区間)



アオスタとその周辺

高い山々に囲まれたアオスタの盆地は、ヴァッレ・ダオスタ州の中で最も広い平地であり、地理的にも文化的にも「ヴァッレ・ダオスタ州の中核」といえる、重要な地域です。2000年もの歴史を誇る州都アオスタをはじめ、このエリアは美術と伝統の宝庫です。古代ローマの遺跡、教会、貴族邸宅、中世の城や塔などが、きっとあなたを魅了します。各時代の傑作を巡って、過去への扉を開いてみませんか？

ただし、アオスタは文化の中心地だというだけではありません。忘れてはいけないのが、このエリアを包み込む豊かな自然の存在です。アオスタからロープウェイに乗ると、わずか17分でピラのスキーリゾートに到着します。70kmのグレンデでは、州の名峰、モンテ・ピアンコ、グラン・パラディーゾ、モンテ・チェルヴィーノ、モンテ・ローザの白い山頂を一望に収めながら、贅沢な気分ですキーを楽しむことができます。

夏には、数多あるハイキングコースを歩いてみましょう。素晴らしい景色が広がります。そして、夜空の星に近づいてみたいのならば、サン・バルテルミーの天文台が、宇宙の神秘を解き明かしてくれます。

日当たりの良い、温暖な気候に恵まれたこの地区は、ぶどうなどの果樹の栽培に適しており、特にりんご栽培が盛んに行われています。ヴァッレ・ダオスタ州の特産りんご「レネッタ」はいろいろな料理に利用され、この地で行われる数多くの祭りの主人公でもあります。その他にも盛りたくさんのイベントが開催されており、毎年1月30-31日に行われる「サントルソの千年市」では、州の各地から職人たちが集まり、木彫り、手編みレース、革細工、機で織った布、柳細工などの伝統工芸品を展示販売します。また、伝統スポーツである闘牛「バタイユ・デ・レーヌ（王女たちの戦い）」の決勝戦もアオスタで行われ、無血の牛同士の闘いを観戦することができます。



アオスタ AOSTA

ヴァッレ・ダオスタ州の州都であるアオスタは、ドラ・バルテア川とブティエール川の合流点に位置し、フランスとスイスへの道はここで分岐します。この場所を戦略上重要視していた古代ローマ人は、紀元前25年に「アウグスタ・プレトリア」という町を建設しました。アウグストゥスの凱旋門やプレトリア門の城壁、円形劇場、地下回路など、古代ローマ時代の数々の遺跡が残されているため、アオスタは「アルプスのローマ」とも呼ばれています。2000年もの歴史を誇るこのアオスタには、経てきた時代のそれぞれの跡が残されています。サン・ロレンツォ教会は初期キリスト教時代の代表的建造物であり、サントルソ聖堂参事会教会、大聖堂、ル・プレヴォ水道橋は、中世の美術と建築の美しい例です。また、5000年前にさかのぼる巨石文明時代遺跡が現在発掘中であり、数年後に公開される予定です。州立考古学博物館「MAR」では、定期的に興味深い展示会が開催されています。アオスタは地方への便利な拠点でもあり、ここから出発するバスや電車は数多くあります。行事も多く行われていますが、中でも毎年1月30-31日に行われる伝統工芸の市「サントルソの千年市」は見逃せないイベントです。

クールマイユール COURMAYEUR

モンテ・ピアンコのふもとにあるクールマイユールは、ヴァッレ・ダオスタ州で最も古いスキーリゾートです。世界中から観光客が集まるこの町は、観光施設が充実しており、一年を通して、自然、スポーツ、文化、グルメ、ショッピングなど、様々なレジャーが満喫できます。100kmのスキーコースを提供するクールマイユールは「冬の王女」であり、夏になれば素晴らしい景色の中での登山が楽しめます。モンテ・ピアンコロープウェイやモンブラントンネルへのアクセスもよく、フランスまでもすぐなので、気が向いたら出かけることも可能です。また、クールマイユールは数多くの山岳ガイドの出身地でもあり、「アブルツィ公アルプス博物館」には有名ガイドの貴重な遺物が展示されています。



■旅行期間：2018年7月9日(月)～7月20日(金) 12日間

■旅行代金：578,000円 新千歳発着 568,000円 東京発着

※その他の空港発着についてはお問い合わせ下さい。

■一人部屋追加代金：48,000円 (山小屋やロッジ泊は除く)

■最少催行人数：4名 (最大10名)

■利用予定航空会社：エミレーツ航空

■食事：朝10回・昼0回・夕8回 ■添乗員 (ツアーリーダー)：新千歳空港より全行程同行します

■利用予定ホテル：クールマイユール/クリュー サン・レミ/ボウ・セジュール

オヤス/ヴァレンチーノ・ディ・マウラ・プチジャック アオスタ/ドウカダオスタ または各地同等クラス
トレッキング中は山小屋泊(グループまたは男女別の相部屋)となります

■査証 (ビザ)：不要

■旅券(パスポート)残存有効期間：入国時90日以上

■空港諸税、燃油サーチャージは別途申し受けます ※目安25,000円～30,000円

■旅行中の予期せぬ怪我や事故などに備えるため海外旅行保険への契約をお願いいたします。弊社ではAIG海外旅行保険を取り扱っています。

トレッキング中の服装・装備・食事など

- ◆ 全ての荷物をご自身で運搬していただきます (ポーターはいません)。工夫して軽量化をお願いいたします。
- ◆ 気候は北海道の初夏～夏に近いですが、空気は比較的乾燥しており、気温の日較差が大きいのが特徴です。
- ◆ 基本的に服装は夏山装備でokですが、長距離の歩行に適した登山靴、しっかりした雨具、防寒装備が必要です。
- ◆ サングラス、日除け用帽子、日焼け止めクリームなど、強い紫外線から肌を守るための準備は必須です。
- ◆ 山小屋には寝具があり、部屋は大部屋、或いは2段ベッドの小部屋です。概ねトイレは水洗。とシャワー設備のある小屋もあります。
- ◆ 朝食と夕食は山小屋で出されます。昼食は山小屋にてサンドイッチなどを購入(10ユーロくらい)、あるいは途中の山小屋やレストランで各自でとって頂きます。街のホテルに泊まる日は街中の店での買い出しも可能です。
- ◆ 飲料水は山小屋、ホテルともに蛇口の水が使えます(無料)。お湯は有料の場合があります。
- ◆ ソフトドリンク、ミネラルウォーター、アルコール飲料やスナック類などは山小屋や街の店で購入できます。
- ◆ トレッキング途中での着替えなど、少量の荷物をオヤスのホテルへ先送りして交換することができます。7/10のトレッキング前日に、アオスタのホテルに直送するもの(スーツケースなど)と、オヤスのホテルへ送る着替えなどの荷分け・パッキングをお願いいたします。
- ◆ 現地通貨はユーロ(€)です。1€≒135円(2018年4月現在)
- ◆ 現地通貨への両替はクールマイユールの両替所やATMで可能。日本から少額を両替して持参しても良いでしょう。
- ◆ ほとんどの山小屋やホテルでクレジットカードが利用できます。
- ◆ アオスタのフリータイムについては、ご希望のハイキングコースや観光地があればご相談ください。お調べしてご案内いたします。
- ◆ 各自フリーでとっていただく食事については、ご希望があれば添乗員またはガイドがサポートいたします
- ◆ その他の詳細に関しましては、ご参加の皆様には後日改めてご案内いたします。